

平成27年度

教育シラバス  
syllabus  
(授業計画)

介護実務者研修科

学校法人 阿弥陀寺教育学園  
国際医療福祉専門学校七尾校

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 人間の尊厳と自立		授業の種類 (通信授業)	授業担当者 宮下 榮子
授業の回数	時間数 5時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] ○<u>尊厳の保持を理解する。</u> ○<u>自立・自律の支援を理解する。</u> ○<u>ノーマライゼーションを理解する。</u> ○<u>利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念をを理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト(第1巻)『第1章 人間の尊厳と自立』(P1～P37)</p> <p>[授業終了時の達成課題] ○<u>尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。</u></p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト 第1巻「人間と社会」 中央法規出版株式会社、平成24年10月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解 I	授業の種類 (通信授業)	授業担当者 藤田 賢二	
授業の回数	時間数 5時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] ○介護保険制度の体系、目的を理解する。 ○介護保険制度のサービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担を理解する。 ○介護保険制度の専門職の役割等を理解し、利用者家族等へ助言できるようになる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト(第1巻)『第2章 介護保険制度の理解』(P39～P76)</p> <p>[授業終了時の達成課題] ○介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</p>			
<p>[使用テキスト] 実務者研修テキスト 第1巻「人間と社会」 中央法規出版株式会社、平成24年10月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解Ⅱ		授業の種類 (通信授業)	授業担当者 藤田 賢二
授業の回数	時間数 30時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間の生活や社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。</p> <p>○我が国の社会保障制度の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習をする。</p> <p>○介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である障害者自立支援制度について、介護実践に観点から基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>○介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度、虐待防止法などの諸制度の基礎的知識を習得する学習をする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>実務者研修テキスト第1巻『第1節 生活と福祉』(P78～P97)</p> <p>実務者研修テキスト第1巻『第2節 社会保障制度』(P98～P136)</p> <p>実務者研修テキスト第1巻『第3節 障害者自立支援制度』(P137～P169)</p> <p>実務者研修テキスト第1巻『第4節 介護実践にかかわる諸制度』(P168～P200)</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○<u>家族、地域、社会との関連から生活や福祉をとらえることができる。</u></p> <p>○<u>社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。</u></p> <p>○<u>障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</u></p> <p>○<u>成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する制度の概要を理解している。</u></p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>実務者研修テキスト 第1巻「人間と社会」 中央法規出版株式会社、平成24年10月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本 I	授業の種類 (通信授業)		授業担当者 寺井 紀裕
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解する。</p> <p>○個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解する。</p> <p>○介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト『第1章 介護福祉士制度』(P1～P7) 実務者研修テキスト『第2章 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開』(P8～P14) 実務者研修テキスト『第3章 介護福祉士の倫理』(P15～P22)</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。</p> <p>○個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。</p> <p>○介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、遵守している。</p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>実務者研修テキスト(中央法規出版) その他、適宜プリントを送付</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>演習問題による添削 60点以上で合格 (60点未満の者は再度、試験・評価を行う)</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本Ⅱ	授業の種類 (通信授業)	授業担当者 藤田 賢二
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○<u>介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握する。</u></p> <p>○<u>チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得する。</u></p> <p>○<u>リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得する。</u></p> <p>○<u>介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>実務者研修テキスト『第4章 介護を必要とする人の生活の理解と支援』(P24～P38)</p> <p>実務者研修テキスト『第5章 介護実践における連携』(P39～P50)</p> <p>実務者研修テキスト『第6章 介護における安全の確保とリスクマネジメント』(P51～P65)</p> <p>実務者研修テキスト『第7章 介護職員の健康管理と労働法規』(P66～P77)</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。</p> <p>○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。</p> <p>○リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。</p> <p>○介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。</p>		
<p>[使用テキスト]</p> <p>実務者研修テキスト(中央法規出版)</p>	<p>[評価の方法および基準]</p> <p>演習問題による添削 60点以上で合格 (60点未満の者は再度、試験・評価を行う)</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) コミュニケーション技術	授業の種類 (通信授業)	授業担当者 寺井 紀裕
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期
		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護におけるコミュニケーション技術を理解する。</li> <li>○介護場面による利用者・家族とのコミュニケーション技術を理解する。</li> <li>○介護におけるチームのコミュニケーションを理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自宅等においてテキストを熟読させる。</li> <li>○科目全体の内容を十分理解した上で、各科目ごとに用意された課題に取り組みさせる。</li> <li>○課題を評価し、必要に応じて指導を行う。</li> </ul> <p>* 学習に使用するテキスト、章、ページ</p> <p>「介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)第2巻 介護Ⅰ」</p> <p>第3章 第1節 介護におけるコミュニケーション技術(P80～P93)</p> <p>第3章 第2節 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(P94～110)</p> <p>第3章 第3節 介護におけるチームのコミュニケーション(P111～P126)</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。</li> <li>○援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。</li> <li>○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。</li> <li>○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。</li> </ul>		
<p>[使用テキスト]</p> <p>実務者研修テキスト 第2巻「介護Ⅰ」 中央法規出版株式会社、平成24年10月発行。</p>	<p>[評価の方法および基準]</p> <p>添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術 I		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 藤田 賢二
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p><u>○生活支援とICFについて理解する。</u></p> <p><u>○ボディメカニクスの基本原則を理解し活用する事が出来る。</u></p> <p><u>○介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を理解する。</u></p> <p><u>○居住環境整備、福祉用具活用等の視点について理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○自宅等においてテキストを熟読させる。</p> <p>○科目全体の内容を十分理解した上で、各科目ごとに用意された課題に取り組みさせる。</p> <p>○課題を評価し、必要に応じて指導を行う。</p> <p>* 学習に使用するテキスト、章、ページ</p> <p>「介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)第2巻 介護 I」</p> <p>第4章 第1節 生活支援とICF(P128～P131)</p> <p>第4章 第2節 居住環境の整備と福祉用具の活用(P132～P139)</p> <p>第4章 第3節 移動・移乗の介護技術の基本(P140～P159)</p> <p>第4章 第4節 食事の介護技術の基本(P160～P165)</p> <p>第4章 第5節 入浴・清潔保持の介護技術の基本(P166～177)</p> <p>第4章 第6節 排泄の介護技術の基本(P178～P183)</p> <p>第4章 第7節 着脱・整容・口腔清潔の介護技術の基本(P184～P199)</p> <p>第4章 第8節 家事援助の基本(P200～P210)</p> <p>第4章 第節</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p><u>○生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。</u></p> <p><u>○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。</u></p> <p><u>○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。</u></p> <p><u>○「移動・移乗」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「家事援助」のそれぞれについて、介護技術の基本を修得している。</u></p>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>実務者研修テキスト 第2巻「介護 I」</p> <p>中央法規出版株式会社、平成24年10月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>		



## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 (通信授業)	授業担当者 藤田 賢二
授業の回数	時間数 30時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] ○「移動・移乗」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「睡眠」「終末期」のそれぞれについて、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ○自宅等においてテキストを熟読させる。 ○科目全体の内容を十分理解した上で、各科目ごとに用意された課題に取り組みさせる。 ○課題を評価し、必要に応じて指導を行う。</p> <p>* 学習に使用するテキスト、章、ページ 「介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)第2巻 介護Ⅰ」 第5章 第1節 移動・移乗の介護(P212～P233) 第5章 第2節 食事の介護(P234～241) 第5章 第3節 入浴・清潔保持の介護(P242～P249) 第5章 第4節 排泄の介護(P250～P265) 第5章 第5節 着脱・整容・口腔清潔の介護(P266～P277) 第5章 第6節 睡眠の介護(P278～P285) 第5章 第7節 終末期の介護(P286～P298) 第4章 自立に向けた介護の方法(生活支援技術Ⅰ)(P127～P210)</p> <p>[授業終了時の達成課題] ○「移動・移乗」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「睡眠」「終末期」のそれぞれについて、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト 第2巻「介護Ⅰ」 中央法規出版株式会社、平成24年10月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅰ	授業の種類 (通信授業)	授業担当者 寺井 紀裕
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護過程の基礎的知識(目的、意義、展開等)を理解する。</li> <li>○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行えるようにする。</li> <li>○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</li> </ul> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ『第1章第1節 介護過程の基礎的知識』(P2～P7)</p> <p>実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ『第1章第2節 介護過程の展開』(P8～P21)</p> <p>実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ『第1章第3節 介護過程とチームアプローチ』(P22～P29)</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護過程の目的、意義、展開等を理解している。</li> <li>○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。</li> <li>○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。</li> </ul>		
<p>[使用テキスト]</p> 実務者研修テキスト 第3巻「介護Ⅱ」 中央法規出版株式会社、平成24年10月発行。		<p>[評価の方法および基準]</p> 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 寺井 紀裕
授業の回数	時間数 25時間	配当学年・時期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○<u>利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、介護過程の展開方法を理解する。</u></p> <p>○<u>観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等について理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>実務者研修テキスト第3巻 介護Ⅱ『第2章 第1事例 施設における高齢者の介護過程』(P22～P46)</p> <p>実務者研修テキスト第3巻 介護Ⅱ『第2章 第2事例 在宅における高齢者の介護過程の展開』(P47～P63)</p> <p>実務者研修テキスト第3巻 介護Ⅱ『第2章 第3事例 障害のある利用者の介護過程』(P64～P91)</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○<u>情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。</u></p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト 第3巻「介護Ⅱ」 中央法規出版株式会社、平成24年10月発行。			[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅲ		授業の種類 演習授業・スクーリング	授業担当者(主担当者のみ掲載) 藤田 賢二
授業の回数 5回(5日間)	時間数 45時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○研修課程で学んだ知識・技術を総合し介護過程を展開して、利用者の特性に応じた介護が提供できる能力を養う。</p> <p>○介護技術の原理・原則の修得・実践。</p> <p>○演習を通して介護過程を理解し知識の統合を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p><u>○介護過程の展開の実際</u>                  多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。</p> <p><u>○介護技術の評価</u>                  介護技術の原理原則の修得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する。</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。</p> <p>○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。</p> <p>○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。</p> <p>○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針]</p> <p>1回目           ・介護過程の基礎知識と応用                                    ・<u>介護過程の展開の実際(事例1を用いたグループワーク・ロールプレイ)</u>                                    ・<u>介護技術の原理原則の修得・実践</u></p> <p>2回目～4回目  ・<u>介護過程の展開の実際(事例2,3,4を用いたグループワーク・ロールプレイ)</u>                                    ・<u>介護技術の原理原則の修得・実践</u></p> <p>5回目           ・<u>介護技術の評価</u>                                    ・知識等の習得度の評価</p>			
<p>[使用テキスト]</p> 介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)3巻「介護Ⅱ」中央法規出版、平成24年10月発行。		<p>[評価の方法および基準]</p> 実技試験60点以上で合格 筆記試験60点以上で合格 実技・筆記試験両方の合格により科目の修了を認定する。 (60点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解 I		授業の種類 (通信授業)	授業担当者 宮下 榮子
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] ○老化に伴う心の変化と日常生活への影響を理解する。 ○老化に伴うからだ(身体的機能)の変化と日常生活への影響を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答し、評価する。</p> <p>[テキスト該当ページ] 介護職員等実務者研修テキスト第4巻 第1章第1節『こころの変化と日常生活への影響』P1～P12 介護職員等実務者研修テキスト第4巻 第1章第2節『からだの変化と日常生活への影響』P13～P26</p> <p>[授業終了時の達成課題] ○老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○高齢者の身体面と精神面の関連、身体機能と精神機能の変化を理解し、社会参加や自己実現を目指す支援ができる。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト 第4巻 「こころとからだのしくみ」第2版 中央法規出版株式会社、平成25年5月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 (通信授業)	授業担当者 宮下 榮子
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○人間の成長、発達について理解する。 人間の生理的な発達として誕生から死に至る個人の生涯にわたる生理的な変化を理解する。 人間の心理的な発達として、人との相互関係を理解し、量的・質的な心理的变化や変容を理解します。 人間共通の一般的な変化発達と個人差が大きい発達を学びます。</p> <p>○老年期の発達・成熟と心理について理解する。</p> <p>ライフサイクルの中の老年期とはどのような時期かを理解する。 ○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解する。 高齢者に多い症状や疾病を理解し日常生活との関係を学ぶ。保健・医療職種との具体的な連携を身に付</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答し、評価する。</p> <p>[テキスト該当ページ]</p> <p>介護職員等実務者研修テキスト第4巻 第1章 第1節『人間の成長・発達』P27～P37 介護職員等実務者研修テキスト第4巻 第1章 第2節『老年期の発達課題』P38～P45 介護職員等実務者研修テキスト第4巻 第1章 第3節『高齢者に多くみられる症状・疾病等』P46～68</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。</p> <p>○老年期の発達課題、心理的な課題(老年化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。</p> <p>○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</p> <p>○保健・医療職種との連携ができるようになる。</p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>実務者研修テキスト 第4巻 「こころとからだのしくみ」第2版 中央法規出版株式会社、平成25年5月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解 I		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 寺井 紀裕
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]  <u>○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解する。</u>  <u>○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。</u>  <u>○認知症の人との関わり方・支援の基本を理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]            ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅で演習問題を解答させ、評価する。            &lt;テキスト該当ページ&gt;            実務者研修テキスト第4巻『第3章 認知症ケアの理念』(P69～P73)            実務者研修テキスト第4巻『第3章 認知症による生活障害、心理・行動の特徴と支援の基本』(P74～P83)            実務者研修テキスト第4巻『第3章認知症の人との関わり・支援の基本』(p84～p91)</p> <p>[授業終了時の達成課題]  <u>○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。</u>  <u>○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</u>  <u>○認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。</u></p>				
<p>[使用テキスト]            実務者研修テキスト 第4巻            「こころとからだのしくみ」第2版            中央法規出版株式会社、平成25年5月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準]            添削付レポート課題による評価60点以上で合格            (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 (通信授業)		授業担当者 寺井 紀裕
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○<u>認知症を医学的側面から見て理解する。</u></p> <p>○<u>認知症の人や家族への支援を理解する。</u></p> <p>○<u>地域におけるサポート体制を理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅で演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト第4巻『第4章 医学的側面からみた認知症の理解』(P94～P111) 実務者研修テキスト第4巻『第4章 認知症の人や家族への支援の実際』(P112～P131)</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○<u>代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。</u></p> <p>○<u>認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</u></p> <p>○<u>地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</u></p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>実務者研修テキスト 第4巻 「こころとからだのしくみ」第2版 中央法規出版株式会社、平成25年5月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>	



## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解 I	授業の種類 (通信授業)		授業担当者 宮下 榮子
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○<u>障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解する。</u></p> <p>○<u>障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。</u></p> <p>○<u>障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <p>実務者研修テキスト第4巻『第5章 障害者福祉の理念』(P134～P343)</p> <p>実務者研修テキスト第4巻『第5章 障害による生活障害、心理・行動の特徴』(P138～P145)</p> <p>実務者研修テキスト第4巻『第5章 障害児・者や家族へのかかわり・支援の基本』(P146～P154)</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○<u>障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。</u></p> <p>○<u>障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</u></p> <p>○<u>障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。</u></p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>実務者研修テキスト 第4巻 「こころとからだのしくみ」第2版 中央法規出版株式会社、平成25年5月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解Ⅱ		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 宮下 榮子
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] ○障害を医学的側面からみて理解する。 ○障害児者や家族への支援を理解する。 ○地域におけるサポート体制を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 &lt;テキスト該当ページ&gt; 実務者研修テキスト第4巻『第6章 医学的側面からみた障害の理解』(P158～P183) 実務者研修テキスト第4巻『第6章 障害児・者への支援の実際』(P184～P196)</p> <p>[授業終了時の達成課題] ○様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。 ○障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト 第4巻 「こころとからだのしくみ」第2版 中央法規出版株式会社、平成25年5月発行。			[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) ことろとからだのしくみ I	授業の種類 (通信授業)	授業担当者 宮下 榮子														
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期														
		必修・選択 必修														
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)が理解できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">第7章 介護に関連するからだのしくみ</td> <td style="text-align: right; padding-right: 20px;">p.199～248</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">第1節：移動・移乗に関連するからだのしくみ</td> <td style="text-align: right;">p.200～209</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">第2節：食事に関連するからだのしくみ</td> <td style="text-align: right;">p.210～219</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">第3節：入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ</td> <td style="text-align: right;">p.220～229</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">第4節：排泄に関連するからだのしくみ</td> <td style="text-align: right;">p.230～238</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">第5節：着脱・整容・口腔清潔に関連するからだのしくみ</td> <td style="text-align: right;">p.239～246</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 60px;">第7章のまとめ</td> <td style="text-align: right;">p.247～248</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。</p>			第7章 介護に関連するからだのしくみ	p.199～248	第1節：移動・移乗に関連するからだのしくみ	p.200～209	第2節：食事に関連するからだのしくみ	p.210～219	第3節：入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ	p.220～229	第4節：排泄に関連するからだのしくみ	p.230～238	第5節：着脱・整容・口腔清潔に関連するからだのしくみ	p.239～246	第7章のまとめ	p.247～248
第7章 介護に関連するからだのしくみ	p.199～248															
第1節：移動・移乗に関連するからだのしくみ	p.200～209															
第2節：食事に関連するからだのしくみ	p.210～219															
第3節：入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ	p.220～229															
第4節：排泄に関連するからだのしくみ	p.230～238															
第5節：着脱・整容・口腔清潔に関連するからだのしくみ	p.239～246															
第7章のまとめ	p.247～248															
[使用テキスト] 実務者研修テキスト 第4巻 「ことろとからだのしくみ」第2版 中央法規出版株式会社、平成25年5月発行。	[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)															

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 宮下 榮子																						
授業の回数	時間数 60時間	配当学年・時期		必修・選択 必修																						
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p><u>○人間の心理について理解できる。</u> <u>○人体の構造と機能が理解できる。</u> <u>○身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、 介護・連携等の留意点が理解できる。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt;</p> <table><tr><td>第8章 心身の構造・機能と介護における観察ポイント</td><td>p.249～325</td></tr><tr><td>第1節: 人間の心理</td><td>p.250～259</td></tr><tr><td>第2節: 人体の構造と機能</td><td>p.260～279</td></tr><tr><td>第3節: 移動・移乗における観察のポイント</td><td>p.280～284</td></tr><tr><td>第4節: 食事における観察のポイント</td><td>p.285～289</td></tr><tr><td>第5節: 入浴・清潔保持における観察のポイント</td><td>p.290～295</td></tr><tr><td>第6節: 排泄における観察のポイント</td><td>p.296～300</td></tr><tr><td>第7節: 着脱・整容・口腔清潔における観察のポイント</td><td>p.301～306</td></tr><tr><td>第8節: 睡眠における観察のポイント</td><td>p.307～314</td></tr><tr><td>第9節: 終末期における観察のポイント</td><td>p.315～322</td></tr><tr><td>第8章のまとめ</td><td>p.323～325</td></tr></table> <p>[授業終了時の達成課題] <u>○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。</u> <u>○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能に ついての基本的な知識を修得している。</u> <u>○身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との 連携が行える。</u></p>					第8章 心身の構造・機能と介護における観察ポイント	p.249～325	第1節: 人間の心理	p.250～259	第2節: 人体の構造と機能	p.260～279	第3節: 移動・移乗における観察のポイント	p.280～284	第4節: 食事における観察のポイント	p.285～289	第5節: 入浴・清潔保持における観察のポイント	p.290～295	第6節: 排泄における観察のポイント	p.296～300	第7節: 着脱・整容・口腔清潔における観察のポイント	p.301～306	第8節: 睡眠における観察のポイント	p.307～314	第9節: 終末期における観察のポイント	p.315～322	第8章のまとめ	p.323～325
第8章 心身の構造・機能と介護における観察ポイント	p.249～325																									
第1節: 人間の心理	p.250～259																									
第2節: 人体の構造と機能	p.260～279																									
第3節: 移動・移乗における観察のポイント	p.280～284																									
第4節: 食事における観察のポイント	p.285～289																									
第5節: 入浴・清潔保持における観察のポイント	p.290～295																									
第6節: 排泄における観察のポイント	p.296～300																									
第7節: 着脱・整容・口腔清潔における観察のポイント	p.301～306																									
第8節: 睡眠における観察のポイント	p.307～314																									
第9節: 終末期における観察のポイント	p.315～322																									
第8章のまとめ	p.323～325																									
[使用テキスト] 実務者研修テキスト 第4巻 「こころとからだのしくみ」第2版 中央法規出版株式会社、平成25年5月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)																								

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類		授業担当者
医療的ケア		(通信授業)		宮下 榮子
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択
	通信:50時間			必修
<p>[授業の目的・ねらい] ○医療的ケア(喀痰吸引、経管栄養等)を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 【通信】 ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p>&lt;テキスト該当ページ&gt; 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第1章 医療的ケア実施の基礎 第1節 医療的ケア』(P2～P26) 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第1章 医療的ケア実施の基礎第2節 安全な療養生活』(P27～P44) 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第1章 医療的ケア実施の基礎 第3節 清潔保持と感染予防』(P45～P58) 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第1章 医療的ケア実施の基礎 第4節 健康状態の把握』(P59～P67) 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第5章 健康状態の把握』(P52～P61) 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第2章 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) 第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論』(P73～P105) 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第2章 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) 第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説』(P106～P128) 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第3章 経管栄養(基礎的知識・実施手順) 第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論』(P129～P155) 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第3章 経管栄養(基礎的知識・実施手順) 第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説』(P156～P174) 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第2章 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説』(P240～P257)</p> <p>[授業終了時の達成課題] ○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p>				
<p>[使用テキスト] 介護職員等実務者研修テキスト第5巻 中央法規出版、2013年</p>		<p>[評価の方法および基準] 【通信】 演習問題による添削及び修了試験にて60点以上で合格</p> <p>※医療的ケア演習の要件は通信授業の(喀痰吸引・経管栄養)の合格をしていること</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類		授業担当者
医療的ケア演習		(演習授業・スクーリング)		宮下 榮子
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択	
2回	12時間		必修	
<p>[授業の目的・ねらい] ○医療的ケア(喀痰吸引、経管栄養等)を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>【講義による確認】 【演習】 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第4章 演習 第1節 喀痰吸引のケア実施の手引き p177～p199』 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第4章 演習 第2節 経管栄養のケア実施の手引き p200～p219』 介護職員等実務者研修テキスト第5巻『第4章 演習 第3節 救急蘇生の手引き p220～p230』</p> <p>【演習】 ○シミュレーターによる喀痰吸引の実施演習(口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上) ○シミュレーターによる経管栄養の実施演習(胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養を各5回以上) ○救急蘇生法演習(1回以上) ○医療的ケア全体のプロセス評価</p> <p>[授業終了時の達成課題] ○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針]</p> <p>・1回目(4.5時間) 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認、シミュレーターによる実技演習 救急蘇生法演習</p> <p>・2回目(4.5時間) 経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認、シミュレーターによる実技演習 救急蘇生法演習(3時間)</p>				
<p>[使用テキスト] 介護職員等実務者研修テキスト第5巻 中央法規出版、2013年</p>		<p>[評価の方法および基準] 【演習】 ・喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部それぞれのシミュレーター演習を実施回数以上実施した上で、5回目の指導者評価結果が全ての項目について手順通りに実施できていると認めた場合に演習の修了を認めることとする。 ・経管栄養 胃ろう又は腸ろう・経鼻、それぞれのシミュレーター演習を実施回数以上実施した上で、5回目の指導者評価結果が全ての項目について手順通りに実施できていると認めた場合に演習の修了を認めることとする。 ※医療的ケア演習の要件は通信授業の(喀痰吸引・経管栄養)の合格をしていること。 ※通信・演習両方の合格により修了を認定する。</p>		